

## コロナ禍のボランティア演奏対策

ラ・フォーレアンサンブル 高橋登希子

私達の団体はボランティア演奏目的の団体です。依頼がなければ活動が出来ません。2月20日までは月3回以上演奏していました。「ギター大好き」のブログには毎回演奏内容(曲名と場所と演奏写真たまに動画)を掲載していました。



3月からは新型コロナの影響で公民館も閉鎖になり、演奏依頼もすべて中止に。6ヶ月間演奏なしですが、ここで、老人ホームより9月に演奏依頼がきました。依頼内容、歌はマスクをしての条件です。

対策1：早速マスクで歌の練習。思いっきり息が吸えません。

対策2：フェイスシールド付けてマイクで歌ってみました。声が籠り、音が良くありません。

対策3：マイクスタンドを支柱にして竿を掛けてビニールを掛け、大きな仕切りを作ってみました。アンプ利用なのでOKです。

ということで、9月の演奏はこの「対策3」で行うことになりました。

新型コロナですべて奪われた気持ちもありましたが、出来ないながらも良い方法を考えて進んで行けば何か出来るかも、と思っています。加盟している埼玉県アーティストボランティアバンクでは、「おうちでコンサートちゃんねる」(youtube)にて過去の演奏を動画配信していただいています。来年2月の第21回狭山市民芸術祭では、私達の団体は初めて企画公演の舞台上で演奏します。コロナで中止にならないように願うばかりです。

## 吟詠活動の現状から

日本詩吟学院 雪吟会 代表 竹迫岳信

新型コロナウイルス感染防御を目的とした諸活動の自粛は、2020年3月以来すでに6ヶ月に及ぶ。私達の吟詠活動では、先ず何より大きな声を発すること。次にグループで発声や練習する(合吟ということ)を基本としていることから、公民館等の施設利用の面から合唱等と同様に特に厳しい制約が課せられてきた。詩吟同好者の平均年齢は70歳台であり、その面からもリスク回避が求められる。

集合して行う日常の稽古が殆ど不可能であること、発表や昇格審査等のイベントの機会が失われたことなどから、詩吟へのモチベーションがどんどん低下して行くのが自分でも認識できることは悲しい現実である。



日常回復の見通しは全く不透明なるも、やがて復旧できる時を目指す現状の課題は、まさにこのモチベーションの維持、向上である。従来以上に詩吟の素材である個々の詩の理解を深めること。作詩の歴史的背景や関連事項へ一層踏み込むこと。音楽的な側面や漢字の学習などなど。クイズまがいの取り組みも含めて、メンバー全員による楽しい試みを少しずつ始めたところである。

現在、市内に詩吟の愛好者は大勢おられることと思う。いずれ同好者が集い、文団連の発表の機会に共に舞台上に立てることを願っている。

### 事務局便り

文化活動が日常生活をどんなに豊かにしていたのが身にしみる日々を過ごしています。会員の皆様におかれましては、命を守ることと文化活動のあり方を工夫されているようです。この現状に屈することなく、知恵を出し合いながら第21回狭山市民芸術祭の開催に向けて準備を続けましょう。ご協力をお願いいたします。

訃報：選任理事として活躍された秋場國雄氏が7月8日に逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

事務局長 岸野智子